

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2024(令和6)年12月9日(月)

みんなの“人権”が尊重される  
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 67

発行：  
人権啓発指導員  
【大楠 茂美】

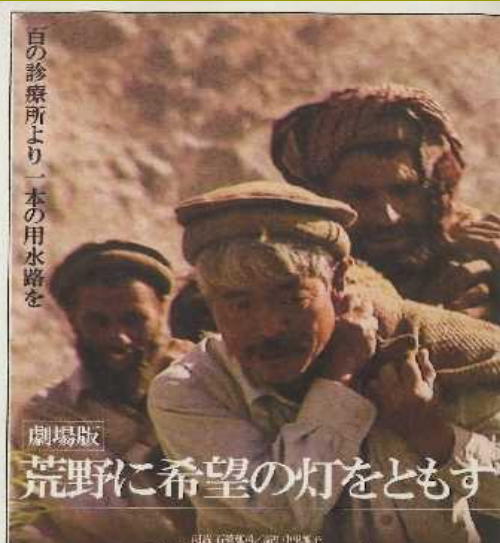
アフガニスタンで人道支援にあたる、福岡市のNGO「ペシャワール会」現地代表だった医師の中村 哲さんが、2019年12月に凶弾に倒れて、5年の月日が…!!

今年の人権映画は、『荒野に希望の灯をともし』が、筑前町(10/2)・東峰村(12/5)・朝倉市(12/6)の三地域において上映されました。…

アフガニスタンとパキスタンで35年に渡り、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けた中村哲さんの生き様から、改めて、かけがえのない生命の尊さのこと、真摯に“自分ごと”として考える…機会になりました。

「一隅を照らす」という信念のもと、今いる場所で、希望の灯をともしようと病を治し、井戸を掘り、用水路を建設し、「命の水」を引いて、緑の大地に作物を…!!

【朝倉地域生涯学習センター《1階ロビー》にて、『パネル展』も開催中です。⇒12/3～12/11(朝倉市農林課)】



企画:ペシャワール会/制作:日本電波  
ニュース社(2022) ※中村医師の  
生き様を追う、ドキュメンタリー映画



この映画は、1998年～2019年に渡る中村哲さんの活動記録、約1000時間の映像から編集されたそうです。二十年を越える記録を取り続けて、私たちに伝えていただいた監督さん始め、撮影隊スタッフの皆さんに感謝するばかりです。…

今から40年前の1984(S59)年、パキスタン:ペシャワールに赴任した中村医師は、ハンセン病や難民等の診療に従事。その活動を隣国アフガニスタンにも広げて、1998(H10)年には『PMS(平和医療団・日本)基地病院』を建設するなど、医療過疎地の診療に力を注がれる中で、…2000(H12)年、大干ばつの影響から水不足、栄養失調、感染症増大等が深刻化。清潔な飲み水の確保が、住民の命を守る生命線!…と、井戸掘りを決意し、今日(こんにち)の灌漑(かんがい)工事・水利事業等へとつながっていったそうです。…【PMSパンフより要約】





2023年現在、70万人以上の生活を支える水!!

その取水(しゅすい→大河から水を大地に引き込む)工事の際に、参考にされたのが『山田堰(やまだぜき)』でした。…

地元の人による、地元の人のための、地元のダムに!!…という考えのもと、補修や改修等も踏まえ、大自然の中で生きる(⇔生かされて生きる)ために、医師である中村哲さんが、ミショベル

カーのハンドル、を握られるようになったミ出发点、となりました。…

また、こうして完成した用水路の取水口近くには、地域の人たちの精神的なミよりどころ、として、『モスク(イスラム教寺院)』と『マラドサ(伝統的な付属教育機関)』を建設。…後に、地域住民に譲渡されたそうです。…



『人が代わり 世が移っても、水の流れは変わらず、水に頼る人の営みも変わりません。自然の恩恵を見出し、平和に生き残る現実策を模索するのが道!!』という信念を貫き、…今いる場所で、希望の灯をともし続けられた生涯でした。

筑前町(10/2)で観ていたのですが、もう一度観てみたい…と、朝倉市上映会に参加させてもらいました。…『水を引く』という大事業自体もそうですが、その地域のミ文化、をも尊重し、地域の人たちのミ人権、を、自分のこととして真摯に受けとめ、地道に継続した取り組みを積み重ね、次世代に繋げる中で、豊かで、確かなミ人権感覚、が育まれていく…と、つくづく考えさせられる上映会でした。ミ人権を尊重する、大切にする、ということは、他人ごとじゃなく、自分ごととして考え、一途に実践に繋げていくということだと、改めて気付かせてもらいました。

人間は、街や村を破壊し、無数の人々を不幸のどん底に落とすことができる一方で、…砂漠に水を引き、緑を蘇(よみがえ)らせ、無数の人々に幸福をもたらす…ことができる。すべては、私たちの選択にかかっている。…



(映画作家:想田和弘さん 一部抜粋)

この映画を観て、ともに考えよう。「中村さん、よくやったね」「大変でしたね」の、その先を…。 (フォトジャーナリスト:安田菜津紀さん)

「今いる場所で、希望の灯(ひ)をともす」、「一隅を照らす」…という言葉の中に、2019(R1)年12月4日、73歳で旅立たれた中村哲さんのミ想い、ミ願い、が込められていました。…そのミ想い、ミ願い、は、次世代に繋がっていきます!!

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2025(令和7)年1月6日(月)

みんなの“人権”が尊重される  
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 68

発行：  
人権啓発指導員  
【大楠 茂美】

≡ 新年 明けまして  
おめでとう  
ございます ☺ ≡



飛ばそう、広げよう  
『人権』の  
種を…!!

タンポポの綿毛の  
ように…

『朝倉地区人権啓発情報センター』は、皆様のご理解のもと、三市町村【東峰村・筑前町・朝倉市】が連携し、学校・地域・企業等で協力し合い、人権が尊重される『差別のないまちづくり』に向けた、様々な取組を推進して、今年の4月で11年目を迎えます…。心より感謝致します☺

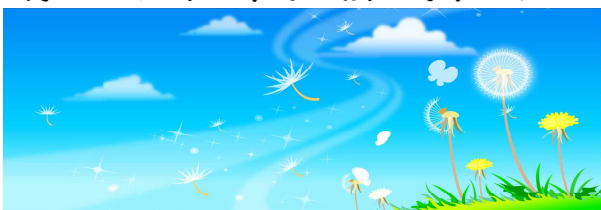
改めて、人権センター設立時の『合言葉』に込められた想いや願いに立ち返り、人権が大切にされるまちづくりに向けて、私たち一人一人が、タンポポの綿毛のように人権(=みんなが幸せに生きる権利)の種を、日々の暮らしの中で飛ばそう!! 広げよう!!、～誰かじゃなくて、私から…～

タンポポの綿毛は、風に飛ばされやすいよう、羽に似た形をしていて、雨の日になると濡れないように閉じてしまいますが、晴れると…元通りになって飛んでいくそうです。綿毛の下には、果実【瘦果:その中に種】が…!!

葉っぱは、陽の光を浴びやすいよう少なくて、日陰では葉の切れ込みが浅く、日当たりのよい所では、葉の切れ込みが深くなる傾向にあるそうです。

根っこは、とても太く丈夫で、地中深くまで長い根を伸ばしています。長さは30～50cmほどで、時に1mを越えることもあり、地上部がなくなっても根があれば再生できる、生命力の強い野草です… ➡

こうしたタンポポに備わる『自然の智慧』のように、飛んで広がる『人権の種』が息づく『差別のない社会』を、私たち一人一人の確かで、豊かな人権認識の『学び』から…!!



1月25日(土):開催(12:30開場/13:20開会) 予定の『第41回  
朝倉地区人権・同和教育研究会』について、お知らせ致します…!!

- 【会場】 ○ピーポート甘木 大ホール(所在地:朝倉市甘木198-1)  
【日程】 ○開会行事/13:20~13:30      ○講演会/13:30~15:00  
【講演】 ○演題 「多様化する家族、共に生きる地域」  
○講師 神原 文子(かんばら ふみこ)さん

～ プロフィール ～

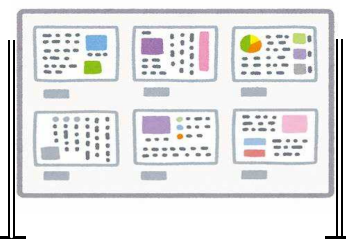
『社会学者(博士)・専門社会調査士』

生活者の視点から、…現代社会の夫と妻との関係、離婚、  
ひとり親家族の貧困、被差別、生きづらさ、ジェンダー不平等  
について調査研究し、人権学習・人権啓発の課題について、  
題提起するとともに、「人権尊重の社会づくり」をめざして、  
執筆や講演をされています。



【パネル展】 会場:ピーポート甘木 2階/ホワイエにて

- ① 人権冊子カレンダー「ひらけ未来に vol.35《私たちの暮らしと人権》」の取組…【編集委】  
② 人権の花運動(東小田小・甘木小・福田小・大福小)の取組…【朝倉人権擁護委員協議会】  
③ ニコニコひろがる!! ひまわりのはな運動の取組…【朝倉地区人権啓発情報センター】  
→(小石原保育園・美和みどり保育所・みなみ幼稚園・安川保育所・  
三奈木保育所・久喜宮保育所)  
④ 『共生社会』の実現に向けた…<sup>ごうりてき</sup>未来のために(『合理的  
<sup>はいりよ</sup>配慮』の提供のこと考えよう→(～障がいのある人も ない人も  
お互いに その人らしさを認め合い、支え合いながら ともに生きる～))



【備考】 ・入場無料です ・手話通訳あります 託児あります(要予約)

※ お問い合わせ … 朝倉地区人権啓発情報センター【TEL 0946(52)1182】



ご参加いただき、私たち一人一人にとっての大事な問題解決  
に向けて、考える機会の一つにいただければ幸いです。

家族の<sup>すがた</sup>姿が多様化する中で、誰もが自分らしく、幸せに  
生きていくことができる(⇔人と人がつながり合う)社会を、  
みんなで築いていける一年に…!! 寒さ厳しい折、お身体ご自愛下さいますように…。

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2025(令和7)年2月28日(金)

みんなの“人権”が尊重される  
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 69

発行：  
人権啓発指導員  
【大楠 茂美】

…1945(昭20)8.8夕刻に、ソ連は日ソ中立条約を破棄し、翌日午前0時、満州・ソ連国境を越えて奇襲攻撃を開始。11日には樺太(カラフト)に侵攻。甚大な犠牲だけでなく、約70万人もの軍人・民間人を捕虜にし、そのうち60万人以上を拉致・抑留した。そして、シベリア三重苦と呼ばれる飢餓・重労働・酷寒の生活を強いられ、約10万人もの犠牲者を出した。これが『シベリア抑留』である。…(長勢 了治 著【新潮選書】『シベリア抑留』)

…若い人たちよ。戦争を知らない人々よ。(中略)彼らは戦争で死んだのではないのだ。戦争が終わってから、酷寒のシベリアで、容赦のない銃口の前で、住むに住む家なく、食うに食なく、着るに衣服なく、病に薬も休養もなく、ひたすら酷使され、ある者は歩きながら、ある者は座り込んだまま、ある者は倒れたまま、さらにある者はどこかへ連れ去られたまま、その命を落とした。…(1975【昭50】年慰霊法要にて 抑留者「ヤゴダ」会の訴えより)

…あれから、80年の歳月が過ぎた新聞の一面に、次のような記事が掲載されました。…

うちにも戦争があった  
(あなたの家族の軌跡)

あの子は曾祖父の自責

シベリア復員後、養女なぜ…

(2025【R7】.2.12(水):西日本新聞朝刊の一面に掲載)



「曾祖父は、1943年8月、37歳で徴兵されて陸軍に入隊。旧満州で終戦を迎えたもののシベリアに抑留されて、12/4、ネーブルスカヤ収容所に入る。そこはシベリアの奥地で氷点下40度にもなる極寒の地だった。…過酷なシベリア抑留の後、京都:舞鶴港へ引き上げる際、知らない女性から「娘を連れて帰って!」と女兒を託されるも逸(はぐ)れてしまい、そのまま帰国の途に…。その後、一人の女兒を養子に迎えたという。それから約10年後、曾祖父は55歳で急死した。出征時、祖父は4歳。人としても幼子の父としても、子どもを見捨てることは本意じゃないという自責の念が、酷寒の地でも消えずに、せめてもの償(つくな)いとして、戦後に養子を迎えたのではないか? 真実は誰にも分からない。ただ、(はっきり言えることは…)あの戦争は、今日(こんにち)のわが家に確実につながっている。…養子として

迎えられた女兒は現在92才に…。養護施設に預けられていたことや、11歳で曾祖父に引き取られたことなど、ご自分の生い立ちを語り、最後に「私はずっと幸せだったよ。施設でも、養子先でも、とても感謝しているよ。」という文章で、締めくくられていました。

戦争、という時代に翻弄されながらも、その時代その時代を、懸命に生き抜かれた人々の生き様から、生きる(生かされる…)かけがえのない生命(いのち)のこと、…そして、今、生を受けている自らのこと、考えさせられています。



「シベリア抑留者の手記より」～さし絵～

懸け橋No.28で、一昨年96歳で旅立った私の父が、旧制中在学中、少年飛行兵に志願し、シベリアに抑留され、京都：舞鶴港に復員したことを書きましたが、当時のことは一言も語らず(語れず)に旅立ったことと重なり、また、偶然にも、当時18～19歳だった父の写真が…!!

「収容所(ラーゲリ)での酷寒の地で、どんな生活をしていたのか? どんな想いで舞鶴港に降り立ったのか? やっとの想いで帰郷したものの、自分の居場所がなく、実家を出ての再出発から96年の生涯を全うした父。

生前、「ただ、生きて戻ってこれただけでいい。亡くなった戦友の想いの分も生きること、それだけで…」とよく言っていた言葉を、ふっと思い出しては、古希目前の自らに置き換え、想いを馳せる…今日この頃です。



福岡県出身の古賀清資(せいすけ)著『私のシベリヤ捕虜物語』に…。【後方左端が父】



2/24(月)の西日本新聞朝刊に、侵攻された国抜きの大国同士で、**21世紀版ヤルタ会談再現**(…80年前、3大国の一方的取り決めが、戦後国際社会の構図を決定付けたように、大国有利の終戦条件確定を狙う…)、という記事が…!!

…新大陸発見以来、五百有余年にも及ぶ、あたかも陣取り合戦、のような大国優先の領土拡大に、翻弄され続けた歴史的事実について正しく学び、これからの未来に確かに繋げていくことを、切に願っています。再び、同じ過ちを二度と繰り返さないためにも!!

力の論理、力の均衡…ではなく、真に、誰もの人権(⇔生命)が尊重される世界を築いていく確かな積み重ねが、SDGS(持続可能な開発目標)の実現をめざすことに…。

～誰もが**生まれてよかった**、と実感できる社会を、私たちみんなで!!～